

○議長（中村 実君）

新保副委員長。〔8番 新保峰孝君登壇〕

○8番（新保峰孝君）

おはようございます。

議会運営委員会報告を行います。

高澤委員長が欠席ですので、副委員長の新保が報告をいたします。

去る2月26日に議会運営委員会が行われておりますので、その経過と結果について、報告いたします。

追加議案についてであります。

大雪に伴う除排雪経費を中心とした令和2年度一般会計補正予算第12号、1件が予定されており、4日の一般質問終了後、委員会付託を省略し、即決にてご審議いただくこととしております。

なお、仮にこの補正予算第12号が議決された場合、今定例会初日に上程された議案第30号、令和2年度糸魚川市一般会計補正予算（第11号）と号数や既定予算額等の数字がつながらなくなるので、このような場合、会議規則第43条の規定により、計数整理を行い、逆転した番号を書き換え、新しい議案書を配付するという説明があり、そのように進めることで委員会の意見の一致を見ております。

そのほかにも取り上げた事項はありましたが、特段報告することはありません。

以上で、議会運営委員会報告を終わります。

○議長（中村 実君）

ただいまの委員長報告に対する質疑に入ります。

ご質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

ご質疑なしと認め、これにて質疑を終結いたします。

お諮りいたします。

ただいまの委員長報告のとおり進めることにいたしたいと思っております。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

ご異議なしと認めます。

よって、ただいまの委員長報告のとおり進めることに決しました。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

発言通告者は13人ありますが、議事の都合により、本日5人、2日5人、4日3人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分であります。所定の時間内に終わるよう質問・

答弁とも簡潔明瞭にお願いいたします。

また、質問は通告書の範囲内にとどめるよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。〔9番 田原 実君登壇〕

○9番（田原 実君）

おはようございます。糸魚川21クラブの田原 実です。

以下、通告書に基づき、質問いたします。

1、スムーズで安心・安全な新型コロナウイルスワクチン接種について。

- (1) 新型コロナウイルスワクチン確保及び糸魚川市の地域医療の現状におけるスムーズなワクチン接種、安心・安全なワクチン接種について伺います。
- (2) 糸魚川総合病院、市内診療所、糸魚川市行政の連携、必要となる行政の支援協力について伺います。
- (3) 市民の理解について、特に高齢者や持病等をお持ちの市民への対応について伺います。

2、1月上旬の豪雪への行政対応と問題点及び「糸魚川市まるごと除雪・排雪大作戦」について。

- (1) 国道8号の渋滞とその影響について伺います。
- (2) 主に能生方面の海岸沿い集落では、これまでにない豪雪による家屋の破損が生じています。これからも住み慣れた地域で生活するには家の修繕が必要ですが、高齢者の収入では修繕費が大きな負担とも聞いています。今後の市の対応について伺います。
- (3) 1月上旬の豪雪では、特に市民への情報伝達と初期対応の遅れ、行政機関同士の連携に問題があると市民から指摘を受けています。今後の対応の強化について伺います。
- (4) 住宅が多く、人が大勢住む地区では、除排雪の作業が困難なため、降雪のたびに混乱が繰り返されています。公道の幹線は管理者が除雪しますが、市街地での枝線や私道の除排雪ができずに本当に困ったという声が随所で聞かれました。そのことはご存じでしょうか。今回の経験を踏まえ、抜本的な行政対応として、期間を集中して市街地の道路の除雪、屋根の雪下ろし、排雪と運搬、広場や河川や海への雪捨てを計画的かつ速やかに進める「糸魚川市まるごと除雪・排雪大作戦」を準備すべきと思います。提言しますがいかがですか、伺います。

3、大火から4年、被災者や地域住民に寄り添う復興となっているか。

- (1) 糸魚川市駅北大火から4年が経過し、被災者や地域住民に寄り添う復興となっているか、また、どのように確認してきたか、伺います。
- (2) 高齢の被災者には日常の食材の買物などに不便を感じている方々が少なからずおられますが、その実態をご存じですか。これからも住み慣れた地域で生活するには市のサポートが必要ですが、今後の市の対応について伺います。
- (3) 大火被災場所に近い旧東北電力株式会社糸魚川営業所と宮田ビルを、最近市が取得しました。老朽化し、使用するには大規模修繕の必要があり、また解体するにもアスベストが使用されているので多額の費用がかかると聞いています。この土地と建物が被災者や地域住民に

寄り添う利用となっていくのか、また、そのプロジェクトの責任者は誰か、伺います。

4、谷村美術館、木地屋の里施設、相馬御風先生の功績等糸魚川固有の優れた文化資源の活用について。

(1) 建設後38年の谷村美術館が、今再び注目を浴びています。そのことはご存じでしょうか。村野建築のシンボルとも言える谷村美術館の今後の運営、新しい戦略や情報発信、40周年に向けての取組を伺います。

(2) 国指定の文化財を収蔵展示する、木地屋の里民俗資料館の存続が危惧されています。糸魚川ジオパークを代表する蓮華ジオサイトと一体となった学習と観光の振興に資する施設としての活用を、市が進めるべきと私は考えます。今後の取組について伺います。

(3) 相馬御風先生の功績を学び、顕彰することが、市民及び行政にとってとても大切なことであると、これまでずっと訴えてきました。私なりの視点から、早稲田文学編集者の時代から芸術座の時代の頃にスポットを当て、テレビ、アニメなどの手段で相馬御風先生の功績を広く世に知らしめることで、糸魚川市の知名度を上げ、誘客につながることも訴えてきました。具体化したものは何かありましたか。今回は、相馬御風先生が作詞に関わり、有名作曲家、中山晋平先生と一緒に作った「カチューシャの唄」は、日本の歌謡曲第1号とされていますが、「カチューシャの唄」を国の文化財もしくは音楽遺産に指定する動きを糸魚川市が先頭に立ち、知音都市交流の中で進めていくことを提言いたしますが、いかがですか、伺います。

なお、今回の提言は「カチューシャの唄」知音都市交流はまだ市民ララ会様にも伝えてあります。都市交流実務者会議で取り上げていただきたく要望します。

5、「えちご押上ひすい海岸駅」周辺のまちづくりを、高校生や地元高校、地域に住む若い世代や子育て世代と連携して進めることについて。

(1) 新駅開業と地域づくりは、高校生が自ら地域を見て、聞いて、考え、将来像を描く「地域探究学習」のチャンスです。地元高校と連携して進めていただきたいと思います。市長の考えを伺います。

(2) 新駅周辺は、子育て中の若い世代が住む地域です。子どもたちは、やがて地域の明日を担う若者へと成長します。その若者たちが住み続けたいと思える地域づくりに、これからどのように取り組んでいかれるのか、伺います。

(3) 駅周辺の空きスペース、例えば新幹線高架下を、高校生や若者たちがイベント等で使いたいといった場合の対応について、子育て世代が子供の遊び場で使いたいといった場合の対応について伺います。

(4) 子どもたちや高校生を守る防犯体制について伺います。

以上、1回目の質問です。よろしく申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1 番目の 1 点目につきましては、地域医療を維持しながら円滑なワクチン接種を推進するため、集団接種と個別接種を組み合わせた体制の準備を進めております。

2 点目につきましては、市医師会と糸魚川総合病院とは、体制整備についての検討を重ねており、人員確保や資材調達について協力体制を整えております。

3 点目につきましては、正確な情報を広報紙やホームページ等を活用いたしまして、市民にご理解いただくよう、順次お伝えしてまいります。

2 番目の 1 点目につきましては、1 月 8 日から 1 1 日にかけての断続的な大雪により、北陸自動車道の通行止めが発生したことで、国道 8 号に大型車両が増え、トラブル等によります渋滞で、除雪に影響を与えたものと考えております。

2 点目につきましては、個人の資産であるため、保険等での対応をお願いしたいと考えております。

3 点目につきましては、今までも関係機関と情報共有を行ってまいりましたが、今冬の対応を検証し、さらなる連携強化を図ってまいります。

4 点目につきましては、除雪業者や地区からもご意見をいただく中で、実施の可能性について研究してまいります。

3 番目の 1 点目につきましては、被災者説明会や区長等との懇談会などにより、意向把握に努め、被災者の早期再建と被災地の復興に寄与してきたものと考えております。

2 点目につきましては、買物等の地域課題は、住民でできる部分や地域として支え合う部分、行政で支援できる部分という仕組みづくりが必要であり、一緒になり取り組んでまいります。

3 点目につきましては、庁内の関係課により、活用について協議・検討してまいります。

4 番目の 1 点目につきましては、現在、えちごトキめき鉄道と連携した取組を進めており、今後とも各分野の巨匠が関わってきた施設として情報発信を行うとともに、40 周年に向けた取組については、ガーデンミュージアム運営協議会と検討してまいります。

2 点目につきましては、木地師の歴史やなりわいを紹介する文化施設として、ジオツアー等で紹介いたしており、今後とも、他の文化施設と横断的に結びつけ、誘客に努めてまいります。

3 点目につきましては、カチューシャの唄の国の文化財指定は難しいと考えておりますが、知音都市の関係市とも相談をしてみたいと考えております。

5 番目の 1 点目につきましては、新駅開業は、地域探求学習のよいテーマの一つと捉えております。

2 点目と 3 点目につきましては、押上区の皆様と新駅開業後の地域づくりについて話合いを進めているところであり、地域と一緒に考えてまいります。

4 点目につきましては、警察及び地区と連携しながら不審者情報等の共有やパトロールを実施いたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ワクチン接種について、再質問します。

2月11日に、市民からお手紙を頂きましたので、その内容に対する市長の見解を伺いたいと思います。

頂いた手紙をそのまま読みます。

コロナが長期間続く中、いろいろなことが制限され、今までにない不安やストレスが続いています。

そんな中で今、心配していることがあります。春頃からワクチン接種が始まるようですが、糸魚川の医療の現状を考えると、果たしてスムーズに進むかということです。

まず、高齢者からの対応になりますが、地方行政に任されているこの事業、糸魚川市の行政の姿勢に不安・不満を感じている市民にとっては、さらなる不安となっているようです。もちろん、行政の方も大変な中、一生懸命やってくださっていると信じていますが、さらに力を問われることになるのではないのでしょうか。

個人的には、東京のある地域で取り組んでいるかかりつけ医との連携対応ができないものかと思っています。というのも、持病がある、病気療養中である者には、初めての医師に全てを説明するのも無理ですし、時間も取られます。それよりも自分をよく知っているかかりつけ医の対応ですと、安心です。高齢者なら、なおさらです。

本当にお忙しい医師の方々には、申し訳ない提案ですが、市民の安心・安全のため、ぜひ検討願いたいところですが、行政では、どのようなお考えなのでしょう。

ワクチン接種で、密な状態が起これば、まさに本末転倒です。市民が安心・安全、信頼できるような行政の姿勢を見たいですし、スピード感を持って真摯な行政の対応を願っています。

どうかお伝えください。よろしくお願いします。糸魚川市民より。

米田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

今回のワクチン接種に関しては、糸魚川市医師会並びに糸魚川総合病院の先生方から、大変前向きに捉えていただいております。

今回の接種の方法であります、集団接種と個別接種を組み合わせた体制で、今準備を進めております。

個別接種につきましては、かかりつけ医の診療所での接種を行うこととしております。今、相談する中で、できるだけ多くの診療所で接種ができるよう準備を進めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

診療所と病院との連携を考えているということですよ。それは大変結構だと思います。

それでは、まず、ワクチン確保における国、県、市、それぞれの役割、また、ワクチン供給の基準について、それと医療従事者の数と、医療従事者の接種が100%できるのは、いつになるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

国、県、市町村の役割であります。国がワクチンの確保をして、それを都道府県が配分して、そして市町村に届けられるといった流れになってまいります。ワクチンの医療従事者の提供でありますけれども、2月の段階では、3月中旬に糸魚川でも進められるのではないかとこの予定になっておりますが、詳しくは、まだ明らかにはなっておりません。

そうした中で、医療従事者、数にして約1,000人ということでありまして。この1,000人が、どういう形で進められているか。いずれにしろ、現在、国が糸魚川市にいつ、どれだけの量を供給できるかが明らかになっておりません。こうした中で、今おっしゃった医師会、そして糸魚川総合病院と連携しながら、円滑な接種体制の確保に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

まず、医療従事者ですよ。100%の接種、いつになりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

当初の厚生労働省の予定では、3月、4月といったところでありましたけれども、今、高齢者の予防接種も4月から進めていきたいという中で、ワクチンの供給量、今、日本に到着している量を勘案しますと、現段階では、いつ終わるかということは不明確な状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

不明確な状況ではありますで終わっちゃまずいでしょう。いつまでに何%ぐらい、くらい考えてません。まず医療従事者ですよ。そこのところを明らかにしないといけないんじゃないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

一番初めに申し上げましたとおり、ワクチンの確保は国が行います。その国の確保量が明確になってない中で、議員のおっしゃるご質問に対しては、お答えできない状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、65歳以上、高齢者への接種、基礎疾患を有する方についても、同じポイントで伺います。いつから接種が始まり、希望される方への接種が100%できるのは、いつになりますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

現段階で、国のワクチンの供給の状況でありますけども、3月中に日本国民全体で200万回分のワクチンの供給を行いたいと言っております。200万回分ということになりますと、糸魚川市に机上の計算で人口割でしますと600回分、すなわち、人の数ですと300人分が供給されるという状況であります。

いずれにしましても、ワクチンの供給がどう進むかによって人数が変わってまいりますので、今いつ終わるかといったことは明確な話はできない状況になっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

となりますと、その他の接種対象となる市民についても同じですね。市民にこのことを、行政はどのように説明して、理解を求めていきますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

今、マスクミでもいろいろと情報が出ておって、ある意味、錯綜している状況だと思います。私も市としましては、確かな情報をしっかりと市民の皆さんに伝えてまいりたいということで、いろんな情報がありますけども、不確かな情報について、今お答えできない状況でありますので、確かな情報をきちんとお伝えして、円滑な接種を進めていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

接種の場所について伺います。

かかりつけ医と糸魚川総合病院との連携対応で、市民にとって安心して安全なワクチン接種としていただきたいと思えますけれども、やはり高齢者にとって、糸魚川総合病院まで行くこと、知らない先生や看護師に接種していただくこと、問診票の記載のサポートが十分に受けられないこと等が問題で、できればかかりつけ医での接種が一番望ましいです。特に問診票の記載は、認知の入った高齢者にはハードルとなって、それを嫌って受けない方が多数出ると予想されます。糸魚川総合病院、かかりつけ医、行政の連携で、ベストな対応ができる糸魚川モデルを早期に構築し、市民に周知すべきではないですか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

先ほど申し上げましたように、集団接種と個別接種を組み合わせた形で実施してまいります。その中で、当然かかりつけ医の方にご相談されたい方は、かかりつけ医にご相談いただいて、そこで接種をするといったことも今可能なよう、準備を進めております。

いずれにしても、より多くの方が心配のないように打っていきたいと思えますし、ある意味では、医療機関だけの接種が可能な状況に今なっておりますので、田原議員言われるような、別の意味での糸魚川モデルといった形での市民の安全・安心を確保した上での接種体制が確保できるのではないかとこのように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

全国の自治体が、それぞれのモデルというものをちゃんと考えてると思うんですね。ワクチンの供給量は確かに、今は確かなことは言えないかもしれないけども、モデルをやはり構築して、市民から理解を得ておくことは、今からでもできますよね。始めていただけますか、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

まず、ワクチンの量が定かではないという状況の中で、糸魚川医師会と糸魚川総合病院とは、非常に入念な打合せをしております。体制の確保につきましては、あらかじめ大きなスキームとしては、



確立されておりまして、今微調整をしているところでもあります。それがしっかりと固まった上で、いつ、どこで、どうやって打てるかというものをしっかりと出していきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今の説明についての再質問になると思うんですけど、ワクチンの接種の期間というのは、いつまで、それから、それをベースに計算すると、1日当たりの接種はどのくらいになるのか、詳細の数字を挙げて、説明をお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

ワクチンの接種期間の終わりではありますが、厚生労働省では、来年の2月末日と言っております。こうした中で、接種体制を組んでいくわけですが、目標というよりも、まず、糸魚川の医療資源の中で、何人の接種が可能かどうかということは今計算する中で、取り組んでおります。

それで、いつまでかというのは、例えばかかりつけ医の診療所でのワクチンの接種回数がどのくらいになるのかというのは、ある先生では1日5回、ある先生では40回というような、今試算をしておりますけども、じゃあ本当に40回できるかどうか。課題はもう一つ、ワクチンの供給と同時に副反応の対応があります。少なくとも接種後15分間は、その場においてほしいといったような要求もあるわけですので、その辺りの整合を図り、さらに冒頭、田原議員言われましたように、密を避けるといった対応もありますので、そういうのを含めながら、確実なワクチン接種を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

会議の中で話された課題を今挙げられただけで、行政が、それをきちっと調整して、市民に向けて、安心・安全なワクチン接種を行います。説明できないといけないんじゃないですか。その説明はないですよ、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

医療関係者とは、今しっかりと調整を行っております。

ただ、今市民の皆さんに明らかにできないのは、いつワクチンが来て、いつ打てるか、そういった部分がはっきりしてない中で、要は不確かな状況の中でお伝えすることは困難であると考えており、確かな情報をお伝えできる段階で、市民の皆さんにしっかりとお伝えしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

それでは、予約から接種に至る流れについて、市民の理解をどう進めるか伺います。特に高齢者や持病等をお持ちの市民への対応について伺いたいと思います。

また、クーポン券の配付、コールセンターでの予約、市民の負担となることはないですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

流れですけれども、今後、接種券を市民の皆さんに個々にお送りします。その個々に送った接種券を基にして、予約センターのほうに連絡、もしくはかかりつけ医の方に連絡をして、予約していただいて、接種をしていただくという段取りになっております。

こうした内容につきましても、基本的には調整がほとんど済んでるところでありますけれども、何度も申しますように、いつ、どれだけの量のワクチンが確保できるか、未確定な状況の中では、今お伝えできる状況にはなっていないということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

行政としては、リスクを取りたくないということなんでしょうけれども、これだけワクチン接種についての国民市民の関心が高まっている中で、自治体の責任において安心・安全なワクチン接種の流れを、やはり市民に早く示すべきだと思うんですね。いつになるか分からないじゃないですか、今の説明だったらば。

今の進め方で、市民にとってのメリット・デメリット、お考えであれば教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

市民にとってのメリット・デメリットということでもありますけれども、基本的には、しっかりとワ

クチンの接種ができるようにやっていくということが基本でありまして、その中でメリット・デメリットというご質問については、どういようにお答えしていいか、はっきりと言えない状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

特に高齢者や持病等をお持ちの方への配慮があるかというところを一番心配してるんですね。そういう方にとってのデメリットになっていく心配はないか、そこは検証されましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

例えば集団接種におきましても、注射を打つ位置がインフルエンザと違って、肩の上のほうになります。そうしますと、それだけ肩のところを開けていただくといった作業があります。そうしますと、年齢の高い方にとっては、なかなかやりにくいといったこともあろうかと思しますので、現在、介添えできるような人の配置も考えておりますし、かかりつけ医での対応につきましても、それぞれの診療所の中でご対応いただきながら、高齢者にとっても接種しやすい環境づくりに努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

子供へのワクチン接種について、対象年齢、数、周知方法について伺います。

また、学校はどうなるのでしょうか。

また、医療機関には、保護者が会社を休んで、子供を連れていくのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

今回の接種につきましては、16歳以上の方が対象になっています。16歳以上の中で接種をしていただくということになりますので、小学校・中学校は、現段階では除かれてるという状況にあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市としては、接種率をどのぐらいと考えていますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

渡辺市民部長。〔市民部長 渡辺成剛君登壇〕

○市民部長（渡辺成剛君）

お答えします。

国でも接種率の目標については、明らかにしておりません。今後、接種が進む中で接種率の目標についても明らかになってくるかと思えますけれども、糸魚川市においても、国同様の考え方であり

ます。ただ、通常のインフルエンザのワクチンの予防接種ですと、昨年までですと大体60%台、今年は70%台といったところでありますので、これが一つの目安になろうかというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

70%が目安というご答弁でしたよね。市民の大切な命を守るために、スムーズで安全・安心な新型コロナウイルスワクチン接種に頑張ってもらいたいと思います。希望される方へワクチン接種100%と、市長に訴えさせていただきます。ワクチン接種対応への市長の決意を伺いたしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり市民のお命は、非常に大切であるわけでごさいます、多くの人に接種を受けていただきたいと思っておりますので、接種に呼びかけは行っていきたくと思っております。まだ不確かなときにおいては、なかなかそういった情報を出せませんが、もっと明確になりましたら、そういったやはり情報発信しながら、市民に呼びかけていきたくと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市長、ありがとうございました。

では、1月上旬の豪雪への行政対応についての2回目です。

国道8号の除雪がままならないことによる事故などが重なり、国道の機能が麻痺して、山徳合の方が、浜徳合の集会場に2泊したとのことなど、状況を市では調査して、対策を立てていますか。

また、藤崎に除雪ステーションの機能を強化すべきと、地元の方からのご意見がありますが、いかがですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

土田能生事務所長。〔能生事務所長 土田昭一君登壇〕

○能生事務所長（土田昭一君）

お答えいたします。

浜徳合の集会場に地域の方が宿泊したとの情報につきましては、1月11日以降かと承知してございます。その後、区長さんからお聞きいたしましたところによりますと、1月9日に5人の方が、1月10日には1人ないし2人の方がご利用になったそうでございます。いずれの日にいたしましても、区長さん方から、おにぎりやみそ汁、漬物等の手配をいただいたそうでございます。

豪雪対応の中ではございましたけれども、情報をいち早く得ることができなかったわけではございませんが、災害につきましては、地元区長さんとの情報のやり取りを心がけておったところですが、様々な情報を収集すべく今後も取り組みまして、関係各課、関係機関との共有を図りながら、臨機の対応が図れるよう、努めてまいりたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

藤崎の除雪ステーションの件でございますが、目の前に除雪ステーションがあるにもかかわらず国道が大渋滞になったということで、市民の方にはそういう疑念というか、そういうのが発生したのかというふうに考えられます。

除雪ステーションの強化そのものにつきましては、今後の検証結果によるものというふうに考えておりますが、基本的なスタンスとしましては、今回の豪雪において、除雪機械ですとかマンパワーが足りなかったということではなくて、なんせ交通渋滞で除雪がままならなかった。除雪が悪いから渋滞したのか、渋滞があつて、事故があつて渋滞して、除雪がままならなかったのか、どっちが先かということもございますが、国土交通省のほうでは、今回の豪雪、多数の大型車両のスタックを未然に防ぐために、今後は除雪作業というものを優先的に実施いたしまして、早い段階から交通規制をかけた除雪体制、各道路の維持というところを検討しているというような状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回の行政対応については、住民への情報伝達が悪く、停電もあり、不安がピークに達したと。何のための放送設備かとの声を聞いています。

能生地区の市民から、手紙を頂きました。

国土管理局、東北電力、消防、警察、各役所間の連絡調整や連携ができていいのか疑問だ。今回のことを教訓に、きちんと対策し、災害が軽減されるよう手だてを取ってほしい。役所でパソコンに向かっているだけでは、現場の問題は解決しない。職員が足で動いて、関係機関を連携させ、情報を生の声で正確に伝えてこそ、市民の命は守られ、安心して暮らせる社会になるとご指摘をいただきました。

市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

おはようございます。

お答えいたします。防災行政無線の関係でお答えいたします。

防災行政無線につきましては、停電時でもバッテリーにより、雷等で機械本体に故障がなければ、屋外の放送が停電になっておってもできるという状況になっております。

また、各ご家庭に入れていただいた個別受信機、これも通常時はコンセントからの電源、そして乾電池をセットしておけば、停電時には、乾電池のほうに切り替わって、そのまま受信ができるという状況になっておるシステムでございます。

いずれにしましても、災害時の情報伝達としましては、適切なタイミングで分かりやすく広報できるよう、放送内容の精査、放送手順の効率化を図ってまいりたいというふうに考えております。

なお、1月7日から11日の大雪期間中の停電の期間における防災行政無線の通信障害は、確認しておらないという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

現象、出来事としては、予想外の降雪による交通障害と集落の孤立という事態が発生して、生活に大きな支障があったということですが、私は、住民の方のふだんからの行政への思いが、あらわになったと捉えています。今回のことを反省し、信頼させる行政を目指して、地域の皆さんへ今後の対応を説明していただきたいと思いますが、能生事務所長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

土田能生事務所長。〔能生事務所長 土田昭一君登壇〕

○能生事務所長（土田昭一君）

お答えいたします。

行政にいただいております期待が大きいものというふうに考えておるところでございます。今回は、予想を上回る降雪によりまして、通常の除雪体制では対応ができないという状況になりましたけれども、情報の収集、あるいは情報の収集や本庁の各課と関係機関との連携によりまして、迅速な対応に努めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

迅速な対応に努めてまいりたい、当然のお答えだと思っておりますが、私の質問のポイントは、地域住民の方に安心していただくように、これからどのような説明をされますかということなんです。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

土田能生事務所長。〔能生事務所長 土田昭一君登壇〕

○能生事務所長（土田昭一君）

お答えいたします。

私どものほうでは、地域との、区長さんとの連絡体制についても、今回以外でなくても通常連絡取るような形も取っておりますし、そういう中で、今回の反省点、あるいは課題等についても、ディスカッションしながら進めてまいりたいというふうに思っておりますし、また、安否確認等につきましても、雪の中ではございましたけれども、職員を充てまして、停電地域の中にも職員を向かわせて、安否確認をさせたというようなこともございますので、臨機に応じて対応も進めてまいりたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

1月10日に、糸魚川の町なかや青海の町なかの方から、お電話をいただきました。行政にも様々な問合せ、苦情、要望があったと思います。その状況を建設課と青海事務所で、整理してあれば、それぞれ伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。3地域まとめてお答えいたします。

その間にかけてまして、1,524件の苦情なり要望を頂戴しております。糸魚川地域が925件、能生地域348件、青海地域251件というような内訳でございます。

その中身を整理・分類してみますと、一番多かったのが、除雪に関する事で、家の前に雪の塊

を置いていかれたとかですとか、除雪してくれたけど、道の幅が狭くて車がすれ違えないですとか。その次に、除雪の時間に関するところが、次に多かったです。出勤時間なのに、まだ除雪が来ない。あと除雪の仕方が悪くて、うまいこと会社のほうに行けないですとか、中にはちょっと自分の通勤の時間帯と自宅の前の除雪の時間が合わないの、もうちょっとどうにかならないのかとか、そういうのが多かったところでございます。

あと、かなり細かく分類をしておりますが、3地域とも共通して多かったのが、今の2点でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、降雪の中での通学、子供たちと通学路の安全確保はどのような状況ですか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

おはようございます。

今回の豪雪につきましては、突然であり、また想定外の、さらに市内全域での大雪となりましたので、関係各課、それから業者との連携によりまして、道路除雪を進めてまいりましたが、やはり通学路については、その確保が遅れてしまったというふうなことは否めません。特に幹線道路に付随する枝道の歩道除雪、あるいは国道に付随する歩道の確保が遅れる傾向にありまして、さらに通学のためのスクールバス、あるいは路線バスの運行も普及の遅れがありました。

そのような関係から、児童生徒の登下校の安全確保のために、3日から4日の学校閉鎖を余儀なくされたということでもあります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

子供たちの安全確保はもちろんですが、学校や保護者への負担についても配慮が必要になってくると思います。何が学校や保護者の負担になるとお考えですか。また、その点、今後の対応について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。



やはり保護者の皆さんにとって負担になるのは、突然の連絡ということであります。いかに迅速に情報を保護者の皆さんに伝えるか、そういったことが保護者の負担を軽減することにつながると考えております。今回の休校措置に当たっては、主にメールによる連絡を迅速に行うことによって、保護者、それから学校からの問合せや批判というものが、ほとんどありませんでした。結果的に休校や、あるいは学校再開への課題をそれによって克服することができたと考えています。保護者、それから学校のご理解にも感謝するところであります。

2月になって、またもう一回、大雪になりましたけれども、その際は、スピード感のある道路除雪、あるいは連絡体制、これを一層迅速に行うことによって、休校も取らずに済みまし、保護者からの問合せ等もございませんでした。

今後もこのような形で、保護者への情報提供、それから理解を仰ぐというふうなことを、まず最優先に考えながら進めていきたいと考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、ごみ収集について伺います。

市民から苦情はなかったのでしょうか。

一方で、ごみ収集業者さんに大きな負担となるようなこと、交通事故が起り得る状況での収集や、ごみ置場の除雪をしながらの収集作業はなかったのでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

高野環境生活課長。〔環境生活課長 高野一夫君登壇〕

○環境生活課長（高野一夫君）

お答えいたします。

まず、1点目の苦情についてでございますが、4日間収集を取りやめておりますが、連日50件程度のお問合せ、実際に収集するののかというお問合せはありましたが、苦情につきましては、トータル二、三件であったというふうに認識しております。

また、収集業者への対応ですが、収集を停止している4日間の間に現地等を確認していただき、金曜日から収集が可能だという判断をさせていただきました。

また、収集においては、無理のないようにということで、実際に収集できなかった地区も4か所、集積場がありますが、そちらにつきましては連絡をいただき、翌日以降の対応になるということで、市のほうから連絡をさせていただいております。無理はなかったものと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回、市街地での降雪と困難への対策として、「糸魚川市まるごと除雪・排雪大作戦」を準備す

べきと提言しました。備えあれば憂いなしとしていただきたいが、この点担当課に、最後伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員ご提案の件につきましては、今回のように交通規制を行いまして、集中的に除雪を行うような場合であれば、もしかしたら沿線の方と調整して、交通規制した後に私有地の雪を道路に出していただいて、その雪ごと排出してしまうということが、もしかしたら可能かもしれません。

ただ、逆にその調整等に時間を要しているようであると、選択的・集中的に除雪をするという意味合いが薄れてしまいますので、今後、業界の皆様ですとか、地域の皆様と意見交換、相談なりをしまして、そのやり方について、実施可能かどうかの研究をしてみたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

市民の皆さんの安心・安全のために研究にとどまらず、実施に向けて動いていただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

では次に、通告書と順番を変えまして、糸魚川の文化資源の活用についての2回目の質問となります。

まず、谷村美術館の活用ですが、最近のC a s a BRUTUSという建築のトレンドを紹介する雑誌で、新潟県を代表する美術館として、続けて取り上げられています。先週、私が美術館へお客様をご案内したときも、若いカップルやグループの姿が見られ、喜ばしいことだと思います。

担当課に新しい戦略や情報発信、また、40周年に向けての取組を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

現在、ガーデンミュージアム運営協議会におきまして、えちごトキめき鉄道と連携した取組について、議論しておるところでありまして、引き続き、建築関係者への情報発信ですとか、あと玉翠園のお庭を利用した記念撮影、また、喫茶としての利用、併せまして、今、年間パスポートという制度もありますが、よりリピーターを拡大するために、これらの改善についてもスタッフから提案をいただいとるところであります。

また、40周年につきましては、再来年40周年を迎えるわけですが、これにつきましてもガーデンミュージアム運営協議会を中心として検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

確かにガーデンミュージアム運営協議会が、中心となって進めていくことではあるかと思いませんけども、全国でたくさん売れてるこの雑誌に取り上げられたということはどう活用していくかと考えたことありますか。谷村美術館を取り上げてくれた建築家と連絡を取って、さらにそのつながりを広げていこうとか、そういうことは考えてみませんか。

やはりもっと外向きに、糸魚川の文化資源を活用していくということ、やっぱり観光課が取り組んでいただかないといけないと思うんですよね。もう一度伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるようなあの施設につきましては、巨匠が関わった施設として特徴的な施設であり、いろんな雑誌等に取り上げられておるところであります。当然、市におきましても、非常に重要な文化施設でありますので、当課も一緒になって検討し、業務していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

次に、木地屋の里民俗資料館の存続についてです。

平成30年9月、木地屋の未来を紡ぐ会において、木地屋会の小椋様のお声の中でも後継者問題が出され、課題解決への取組や木地屋の未来についても議論されました。その結果は、どのように生かされましたか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

おはようございます。

議員の今言われました木地屋の未来を紡ぐ会ということで、平成30年に開催しているところがございます。その際に、言われるとおりの様々な課題が提案されて、その点を踏まえて管理組合の皆様方といろいろな話をしているという状況であります。

ただ、大きな部分での人の確保というところは、現在も協議中であります。引き続き、こちらのほう、観光・文化といった部分でも組合の中でも話をしているところがございます。そういったところを含めまして、引き続き、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

その会のゲスト講師の白澤教授から、戦略的情報発信が必要と指摘がありました。さらに、市民向けイベントで集客する市内の児童・学生に、木地屋の歴史を学ばせる講座と体験学習で集客する。蓮華温泉への中継地点の道の駅的なものとして集客する。広域あるいは新潟県の中につくる観光連携と文化ツアーで集客すると具体的な提言をいただきましたが、その取組はありますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

木地屋の里につきましては、糸魚川ジオパークの蓮華ジオサイトの中の一つの施設であります。このほかに市内には、長者ヶ原考古館ですとか塩の道資料館、ほかいろんな資料館等ありますので、当地域の特徴的な文化ですとか歴史を紹介するようなカルチャーサイトということで、そういう文化的なものを横断的に結びつけまして、分かりやすく情報発信をしまいたいと思っておりますし、また、蓮華温泉の入り口に位置しているものですから、現在も様々な蓮華温泉とタイアップして、情報発信をしているところでありますが、今後とも、さらなる情報発信に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

猪又農林水産課長。〔農林水産課長 猪又悦朗君登壇〕

○農林水産課長（猪又悦朗君）

多く課題が出されておるわけでありまして、その中で具体的な取組、少し時間がたったところもございますが、昨年の12月、また昨日になりますけれども、木地屋の文化ということで座学をそれぞれ公民館、歴史民俗資料館で開催しているというところでございます。

そういったところをしっかりとつなぎながら、木地屋の文化に対する理解、また、ファン、理解してくださる方を確保していきたいという取組を現在いただいているというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

糸魚川蓮華ジオサイト等、木地屋の施設と一体となる活用、資料館と存続についてどうするのか、再度、米田市長に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

木地屋の里につきましては、非常に糸魚川市にとっても大切な施設であると捉えております。その辺を今いろんなやはり管理運営の問題であったり、そして、活用の問題であったり、やはりスタートからかなり時間がたっておるわけでございますので、その辺の整理もしながら進めていかなくてはいけないんだらうと思っております。課題は、やはり多くある中において、行政の果たす役割というのもまた必要になってくるんだらうと私は思っております。市内には、また同等の施設もございますので、そういったものと連携を取りながら進めていきたいと思っております。

非常に降雪地帯での施設、管理運営というのは非常に難しいところがあるかと思うわけであり、そういったところをやはり考えながら、続けていかなくてはいけないという観点に立っての方向性だと考えております。蓮華温泉を中心とする蓮華ジオサイトにいたしましても、やはりまだまだ整備が遅れてる部分がありますので、そういったこと連携を取りながら取り組んでいかなくちゃいけないと思っておりますので、引き続き、しっかりと取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今、市長がお話しになりました行政が果たす役割、この言葉をいま一度かみしめていただきたいと思えます。

次に、相馬御風先生の功績を広く世に知らしめる取組について、「カチューシャの唄」の文化財登録、知音都市交流及びはまだ市民ララ会様との連携について、担当課に伺いたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

カチューシャの唄をご縁としました知音都市交流につきましては、4市で交流をしておるわけでありまして、毎年持ち回りで交流会ですとか、あと実務者広報担当者等の会議を開催しております。また、ララ会の皆さんにつきましても、交流会、また担当者会議等で話をさせていただいておるところであります。今ご提案がありました件につきましては、登録の要件等を満たしているかという検討も必要であります。こういう機会に他市の団体等の皆さんともお話をさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

手続としてはそうですね。私、一番訴えたいことは、御風先生の功績を継承することの大切さ、これを行政の皆さんがしっかり思っているのか。それを市民、子供たちに伝えていこうとしているのかというところなんです。何度も伺っていますけども、御風先生の功績を伝えていく取組、まず教育委員会がしっかりと熱を出して、知恵を出していただきたい。

教育長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

以前も田原議員の答弁でお答えしたと思うんですが、御風先生は糸魚川を語る上で、その生き方も含めて欠くことのできない偉人であるというふうに思っています。これらについて、世代を超えてつなげていく、その役割が教育委員会にあると思いますので、しっかり取り組んでまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

では、続いて、えちご押上ひすい海岸駅周辺のまちづくりの再質問です。

高校生が考え、描くまちづくりを進めることについて、各担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

今、高校生が思い描くまちづくりというご質問ですけれども、今、教育委員会では、高校と一緒にあって高校の魅力化の一環で地域探求学習というものに取り組んでいます。その中で、生徒が本気になって課題解決に取り組みたいという気持ちと、地元の本気になって地域づくりに取り組みたいというところが、マッチングして初めてそういった地域づくりになっていくんだらうなというふうに思います。いずれにしろ、高校生が本気になって取り組みたいというテーマの一つであらうというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

高校生からは、公共交通の大切さについても考えていただく機会になればと思っています。

建設課、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

高校生からのまちづくりのアイデア募集といたしまして、鉄道、新駅、ヒスイ海岸などをキーワ

ードにしまして、20年後をイメージした高校生のまちづくりのアイデア募集というものを住民参加型のまちづくりの専門家でありまして、建築家でもあります川西先生のほうからご指導いただきたいということで、先生のほうからご賛同をいただいております。

また、高校生はアイデア募集の件と、川西先生のほうは千葉大学の講師もやっておられますので、まず、鉄道のまちづくりといったようなキックオフ的な講演をいただくようにお声がけをしておるところでございます。

ただ、このコロナ禍ということで、日程、具体的にじゃあ、いついつというところもできませんし、学校との日程の調整というのもままならん状況でございますが、ただ、高校生ならではの若い新しい発想などを期待されますので、引き続き、世の中の状況というものを見ながら、調整を進めていきたいというふうに予定しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

昨年の夏に、川西先生と懇談会を持ちました。その折に、先生からは、高校生もそうだが、地域の若い世代やファミリーからの聞き取りや意見の反映が不可欠とご指導いただいております。先生とのご縁を生かし、地元の糸魚川高校で川西先生に地域づくりのご講演をいただくことを以前より担当課にお願いしてあり、今の答弁をいただいたわけでありますけども、調整に手間取っていることは分かりますが、その一歩が糸魚川の未来をつくっていくこともあるんです。駅を造るだけじゃなくて、地域づくりに対して、やはり川西先生のお力を借りるべきだと思うんです。進めていただきたい、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

ジオステーション、ジオパルにトワイライトエクスプレスの再現車両を川西先生のほうにデザインをお願いした際にも、実際にそこに関わる人たちに事前に何回か意見交換をしながらやると。それが私の設計のスタイルだということを強く言われて、実際にそういうステップを経て、今のトワイライトの再現車両というものが実現したものでございます。

川西先生のほうとは、これからもご縁をつなげていきたいのですが、なんせ今、行き来ができないというような状況もあるもんですから、まずは糸魚川高校生の皆さんに3月13日の開業式典にも少し関わっていただきながら、必ずいつかそれを実現する時期を目掛けて、私どもは今準備をしておるという状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

リモートでの講演会、勉強会は考えないんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

五十嵐建設課長。〔建設課長 五十嵐博文君登壇〕

○建設課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

リモート、今、役所の関係でもウェブ会議というものはかなりありますが、どうしても川西先生の生の声、生のお姿、そういうところを私どもは重視したいと思えますし、やっぱり同じ会議でも、向かいに人がいるのとテレビ画面越しにいるのでは、同じような会議でも、やはり何と申しますかテレビを見とるような感覚になってしまいますので、その辺、私どもは、ぜひライブでと申しますか、川西先生に糸魚川に来ていただいて、高校生と直にしゃべっていただきたい。そこを目指したいというふうに私は考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

ありがとうございました。よろしく申し上げます。

では、糸魚川市駅北大火から4年を経過し、被災者や地域住民に寄り添う復興となっているか。また、どのように確認してきたか、担当課に改めて伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

斉藤復興推進課長。〔復興推進課長 斉藤喜代志君登壇〕

○復興推進課長（斉藤喜代志君）

お答えいたします。

被災者の皆様や周辺の皆様等につきましては、意見交換会と申しますか、すみません、被災者関係者説明会、それから区長さんとの懇談会、あと工事関係の説明会等、そういったものを逐次行っておりまして、そういった中でご意見、そういったものを伺って活動、我々の復興の事業につなげていくといったことを進めてきておるものであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

高齢者や被災者には、日常の食材の買物などに不便を感じる方々が、少なからずおられます。被災され、家を再建し、生活する高齢のご夫婦からお話を伺っています。

これまで市は、被災者の生活再建のため、一生懸命サポートしてくれたことに感謝している。



しかし、生活には、買物が不便で困る。運転免許も自主返納したので、遠くのスーパーへ行く手だてがない。週に2回タクシーで買物に行き、食材を買ってくる。以前よりJAの食彩館のようなものがあればと要望を述べているが、市は取り組まない。町を歩いている人がいない。たまに見かけても、つえをついてる人か、銀行回りの人だけだ。キターレで食事の提供があるが、私たちの食べたいものはなく、雰囲気にもなじめず、足が向かない。

市はにぎわいをつくると言ってきた。大学のサテライトキャンパスや看護学校を町なかへの誘致をすれば、若い人たちが町なかに住み、にぎわいが出てくる。

以上、率直な被災者住民の声をお届けしましたが、市長はどう受け止められますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

駅北大火につきましては、災害を非常に重く受け止めさせていただき、ほかの災害とは違い、災害復旧のための計画づくりをスタートさせて取り組んでまいりました。

そういった中で、やはり以前からある課題、そういったところも合わせながら対応してまいりました。今ご指摘のような買物をするところがないというのは、やはり以前からも要望をたくさんいただいていた問題であるわけでありまして、さらにそれが、時が過ぎていく中においては、顕在している状況がございます。それにつきましては、被災者の皆さんのみならず、市内全域に起きとるわけでありまして、そういったところをしっかりと対応していかなくてはいけない、行政としてどのようなことができるかという中で、今取り組ませていただいております。それと合わせながら進めていきたいと思っておりますし、また、にぎわいづくりが、今若い人たちも取り組んでおられます。そういったところを、また住民の皆様方にどのような形で進めていかれるかという課題も、その中で取り組んでいただければありがたいなと思っておりますし、行政もそういったところの中において、加わりながら対応していきたいと思っております。今の復興計画のみならず、そういった課題というものはあるわけがございますので、しっかりとその辺も考えながらいきたいと思っております。

また、今ご指摘いただいた若い人たちが集まる一つのアイデアみたいなところもいただきましたが、我々もご寄附頂いた建物や、また買収した建物をどのように生かしていくかというのも、やはりこれからの市民生活、また、商店街の対応について、寄与できる復興の活動や施設にしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

旧東北電力糸魚川営業所と宮田ビルの取得費と土地建物の詳細を担当課に伺います。

併せて、解体する場合の費用、修繕して使う場合の費用と年間維持費も教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

まず、解体費用等につきましては、現在のところ解体等は検討の中には入っておりませんで、詳細についてはちょっと不明なのですが、今、維持管理していく上での費用なのですが、大体2棟で20万から30万ぐらいの費用がかかってくるかと思います。

主には、建物の保険料でありましたり、まだ宮田ビル様のほうにおきましては、テナントの方がいらっしゃいますので、光熱水費等が維持管理費ということでかかってまいります。

以上です。

失礼いたしました。

取得費用につきましては、土地建物等の解体等のお金でありましたり、土地の価値だつたりの差引き等ありますが、5万4,000円で東北電力のほうのビルは購入をさせていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

今回の取組で、資産が増えたのか、負債が増えたのか、この土地と建物が、被災者や地域住民に寄り添う利用となっていくのか、正直疑問なのですが、この点について、また、今後進めるプロジェクトのゴールは何なのか、市の責任者は誰か、担当課に伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

2棟の施設につきましては、やはり中心市街地の中心に続けておるわけでございますし、北陸新幹線の日本海側の近い位置にあるわけでございますので、非常に私といたしましては、活用の面があるのではないかとということで、ご寄附や、また買収についてのお引受けをさせていただきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

最後に、被災され、家を再建して戻った高齢の女性からのお話を紹介します。

市は、にぎわいの拠点をその場所につくると言い、子育て支援の施設を入れると会議で説明されたが、地域のニーズに合うとは思えなかった。高齢者が気軽に立ち寄って、集う場があればよいと思い、意見を出したが、市では取り組まない。

買物に不便なことも再三意見を出した。町なかでの買物難民となった私たちのことを、市は忘れ

てしまったかのようで、もう諦めた。

4年間、市の取り組んできた対応への評価としては、大変残念なことが聞かれましたが、率直な被災者住民の声をお届けしました。今後の復興まちづくりへの米田市長の考えを、いま一度お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

被災者の皆様におかれましては、数多くおられます。そのお一人一人がいろいろなお考えをお持ちかと思っております。私は、やはり多くの皆様方のご意見をお聞かせいただくために、この駅北大火につきましては、ご承知のとおり、最低でも1か月に1回は被災者のお声を聞かせていただき、また、こちらの考え方を述べさせていただいたわけでありまして、非常に私といたしましては、ほかの都市の災害と比べて、きめ細かな対応を取ってきたと思っております。そういう中で、そのようなお考えをお持ちの方もおられるかもしれません。

しかし、私は、やはりこの計画の中でにぎわいづくりを進めていくという形の中においては、限られた計画の中では達成してないのかもしれませんが、しかし、持続できる体制を整えてまいったものでございまして、これからもやはりそれについては、今動いておるいろいろな団体、またいろいろな考えをそのまま続けていくことによって、私は必ずにぎわいは、また生まれてくるものと思っておりますので、引き続き、この取組については、支援をし、継続していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

田原議員。

○9番（田原 実君）

復興に向けて4年間、市長からは大変ご尽力いただきました。ありがとうございました。

また併せて、地域医療の確保についても大変なご配慮いただいたことを感謝申し上げます。さらなるご活躍を祈念申し上げます、私の一般質問を終わります。

○議長（中村 実君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

11時35分まで暫時休憩といたします。

〈午前11時27分 休憩〉

〈午前11時35分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、佐藤 孝議員。